社会不安及び生活満足感が居場所（安心できる人）の評定に及ぼす効果

岡村季光（奈良学園大学）

キーワード：居場所（安心できる人），社会不安，生活満足感

問題と目的

居場所とは「自分が安心していられる場所」であり,「安心できる人」が重要な要因となる（岡村，2015）。岡村・豊田（2015，2016）は，“自分ひとりでいる時”の安心感を高く評定する者は，他者との関係を回避的に捉える傾向や見捨てられ不安の懸念傾向がみられた。これは，他者からの否定的な評価を受けることへの不安と関連していると示唆された。

また，他者からの否定的評価に対する恐れが社会不安を維持する（笹川ら，2004）ことから，社会不安が日常生活を過ごす満足感とも関連していることが考えられた。

岡村（2017）は，居場所（安心できる人）の評定と社会不安及び生活満足感の関連を検討した結果，社会不安が低く，かつ家族への安心感の評定が高かった群は生活満足感の高さと関連することを明らかにしたが，自分ひとりへの安心感との関連を十分検討できなかった。

そこで，本研究では自他への安心感の評定と社会不安及び生活満足感の関連について検討することを目的とした。

方　法

調査対象　近畿圏内に在住の大学生255名（男子153,女子102）。平均年齢は19.62歳（*SD*1.35）。

調査内容

a）居場所（安心できる人）の評定　“あなたは以下の人と居る時に安心できますか。ここで用いている「安心できる」とは，ホッとする，落ち着く等という意味です。”という教示を行い，“自分ひとり”“父親”“母親”“きょうだい”“現学校以前の友人”“現学校以降の友人”“恋人”といる場面を設定。

b）社会的不安測定尺度（FNE）短縮版（笹川ら，2004）　現実の対人場面において他者からの否定的評価による不安を測定する尺度。単一尺度（例：誰かと話しているとき，その人が自分のことをどう思っているか心配だ）で逆転項目4項目を含む12項目。

c）生活満足感尺度（鈴木，2002）　全般的生活満足感に加え，生活の中心となる学校生活と家庭生活，および対人関係の中心である友人関係における満足感を測定するために作成された尺度。全般的生活満足感6項目（例:今の生活には楽しいことがたくさんある），家族関係満足感5項目（例:自分の家族が好きだ），友人関係満足感6項目（例:今の友人関係に満足している），学校生活満足感5項目（例:今の学校生活に満足している）の計24項目。

調査手続

1.居場所（安心できる人）の評定　上記a）の調査項目について“自分ひとり”“父親”“母親”“きょうだい”“現学校以前の友人”“現学校以降の友人”“恋人”といる場面において,それぞれ“５：非常に安心できる”から“１：あまり安心できない”の５件法で回答を求めた。

2.FNE短縮版　上記b)の調査項目について“５：非常にあてはまる”から“１：全くあてはまらない”の５件法で評定。

3.生活満足感尺度　上記c）の調査項目について“５：非常によくあてはまる”から“１：全くあてはまらない”の５件法で評定。

結果と考察

安心できる人評定，FNE及び生活満足感の関連　相関係数（r）を算出した結果，自分ひとり（r=-.21）及び全般的生活満足感（r=-.19）とFNEは有意な負の相関であった。自分ひとりへの安心感評定と社会不安，さらに社会不安と全般的生活満足感の関連が明らかとなった。

性別，FNE及び生活満足感が安心できる人評定に及ぼす効果　性，FNE及び生活満足感を予測変数，安心できる人評定得点を目的変数とする重回帰分析を安心できる人ごとに行った結果，自分ひとりへの安心感は性（β=-.21），FNE（β=-.21），友人関係満足感（β=-.18）が予測変数として有意であった。

一方，他者への安心感は，父（β=.50），母（β=.61），きょうだい（β=.33）は家族関係満足感が予測変数として有意，現学校以前の友人（β=.33），現学校以前の友人（β=.28）は友人関係満足感が予測変数として有意，恋人は性（β=-.19），全般的生活満足感（β=.17）が予測変数として有意であったが，FNEは予測変数として有意でなかった。安心できる人評定の対象が自分または他者により影響を及ぼす変数が異なることが明らかとなった。